

第72回日本PTA全国研究大会川崎大会

期日：令和6年8月23日（金）～24日（土）

場所：神奈川県川崎市 川崎市とどろきアリーナ

『ウェルビーイングの実現を、川崎の地から』を大会スローガンに神奈川県川崎市で開催された、日本PTA全国研究大会川崎大会の様子を、前号に続いて報告します。

『ウェルビーイングの実現を川崎の地から』をスローガンに開催された第72回日本PTA全国研究大会。

ウェルビーイング。よく耳にする言葉ではあるが、本質的な意味を考えたことはありませんでした。辞書的には

「well」＝良い、「being」＝状態、在り方。では、その良い状態を作っていくにはどうしたら良いか、PTAの立場で何が出来るのかを考えた時間になりました。

特に印象に残っているのは、認定NPO法人フリースペースたまりばの西野氏の講演です。既存の制度や競争に子どもを向かわせるのではなく、子どもの自己肯定感や安心して失敗出来る環境づくり、そして他者との繋がりを感じられる事が大事だとおっしゃっていました。

『誰かと繋がっている実感を育むのには一番は家庭』という言葉。丁寧に意識して日々の生活を送っていきたいと思いました。

また、住んでいる地域ごとで色違いのリストバンドを装着し、異なる色のリストバンドの人とチームを組みグループディスカッションを行った事も非常に印象に残っています。本筋からは逸れるかもしれませんが、私のグループでは私以外は比較的都市部在住の方でしたので、学校の規模の違いによってPTA活動への向き合い方が大きく異なっている事を知れました。どちらが良い悪いという訳ではなく、「PTAを取り巻く環境はこんなにも違うんだ」を知ることができました。

今回、初めて自分が住む町から出たPTA活動に参加



させていただき、月並みな言葉かもしれませんが確実に視野は広がったと思っていますし、そのような経験をさせていただき感謝申し上げます。まずは自分の身近な所から実践していきたいと感じた日本PTA全国研究大会でした。
(副会長 金澤 辰則)



この季節の川崎はとても暑く会場に着くまでに汗拭きタオルが絞れるほどでした、やはり岩手は住みやすい地域だと実感してきました。川崎大会はウェルビーイングというあまり聞きなれない言葉がコンセプトの大会で、意味はハッピーとは少しニュアンスが違う幸せとか幸福ととらえる言葉のようでした。
様々な箇所でウェルビーイングに繋げる活動を聞き学ぶことができました。特に子供に接するときに使いがちな「ちゃんとしろ」とか「普通にしろ」とかの抽象的な言葉ではなく「くをすればもっといい」などしっかりと内容を伝え肯定的な言葉を使うなど私たち親が気づかず使っていた言葉も見直すことも出来ました。実際私たちの会議でも否



定的な考えから入らず肯定的な考えからアプローチしていけばもっと円滑で明るい会にしていけるのでは？と考えさせられました。これまでの考え方や無意識に行っていたことなど、ウェルビーイングに繋がるPTAでの活動の仕方を考えることになった貴重な機会でした。
(副会長 野場 貴行)